

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立北中島小学校

令和 7 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の子どもたちは、明るく元気な子が多く、これまでの取組の中で、自ら進んで挨拶をする子どもたちが増えている。永年地域の見守り隊をしていただいている方々から大きく称賛されており、地域の方々の幸福感につながっている。また、日々の生活での教職員と子どもとのかかわりや、係・当番活動、クラブ活動、委員会活動などを通して、自主的・主体的に行動する子どもたちをはぐくんできている。なかよし班活動（縦割り班活動）では、上級生が下級生の面倒を見ることが定着しており、異学年の子ども同士のつながりも深まってきている。

これまで本校の子どもたちは、自己肯定感の低さが課題とされてきた。この点については、地域の方々の心配も大きい。その課題解消に向け、令和5年度より、子どもたちに寄り添い、子どもたちの頑張り、取り組む姿勢、成果等をしっかりほめることを大切にしてきた。令和6年度からは、これまで行ってきたことではあるが、成果は出なくとも一生懸命頑張る姿、熱心に取り組んでいる姿をしっかり認めることをあらためて確認し、子どもたちの自己肯定感と自己有用感の向上をめざしてきた。教職員みんなで同じ方向性をもって子どもたちにかかわってきたことで、これまで課題とされてきた自己肯定感の低さについても改善の兆しが見えてきている。大阪市学力経年調査児童質問紙の「自分にはよいところがあると思いますか」の質問項目について、令和6年度は大阪市平均を超えることはできなかったが、大きな差はなくなってきた。自己有用感については、児童質問紙の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問項目について、肯定的に回答する子どもの割合が、令和6年度に初めて大阪市平均よりも高くなった。令和5年度末の運営に関する計画最終評価で『自己有用感を高める取り組みについては、個人差が大きく継続した声掛けや支援が必要と感じた』とあがったことを受け取り組んできたことが、客観的なデータで目に見える形であらわれてきたのである。さらには、児童質問紙の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問項目においても、肯定的に回答する子どもの割合が、令和6年度に初めて大阪市平均を超えることとなった。令和5年度末の振り返りをもとに令和6年度当初に課題としてあげていたことが、改善の兆しを見せてきているのである。教職員みんなで力を合わせ取り組んだことが、子どもたちの変容を生み、成果となってあらわれてきている。学習面でも、普段の学習において前向きに努力する姿がたくさん見られている。大阪市学力経年調査児童質問紙でも、算数・理科・社会においては、「好きですか」「よく分かりますか」の質問項目について、肯定的に回答する子どもの割合は、大阪市平均を2年連続で超えることとなった。また、大阪市学力経年調査の標準化得点においても前年度を上回ったり、経年調査が大阪市平均の7割に満たない子どもの割合も減少したりと、成果が表れている。様々に成果が表れてきてはいるものの、令和6年度の運営に関する計画最終評価において、次年度への改善点で『自己有用感を高めるためにさらなる取り組みが必要である。今後も自主教材を継続して実施したり、児童同士がお互いの良いところを見つけて、それを素直に表現できたりするような活動を全体として行っていく必要がある。』『目標は達成できているが、1学期のアンケートでの達成状況より3学期のアンケートの数値が下がっているので、引き続き一人ひとりのよいところを褒め合う活動などを継続して行う必要がある。』とあが

っている。今年度も引き続き、自己肯定感・自己有用感の醸成を進めていく必要がある。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問項目について、校内調査では目標値を達成しているものの、大阪市学力経年調査児童質問紙では肯定的な回答が大阪市平均よりも低い状況にある。この点については、今後の課題と感じる。

学習面においては成果があらわれてきてはいるものの、運営に関する計画最終評価からも読書面での課題が継続して表れている。「読書は好きですか」の質問項目について、校内調査では目標値を達成してはいるものの、大阪市学力経年調査児童質問紙では肯定的な回答が大阪市平均よりも低い。また、「学校の授業時間以外の読書時間」に関する質問項目で、最も否定的な回答をする子どもの割合は、ここ3年間連続で大阪市平均よりも高くなっており、令和6年度が最も高くなってしまった。読書は語彙力・表現力等に影響を与えるものであり、学力の基礎をつくりあげるものでもあると言える。今年度から主幹司書が配置され、週4回学校図書館にすることになる。新たな取り組みを構築し、課題解消を進めていきたい。

運営に関する計画の最終評価から見えてきた他のこととしては、運動面における意識（運動やスポーツをすることが好きか）の向上という成果があがっているが、『次年度は2学期から運動場が元の大きさに戻るので、今年度計画していたなわとび週間や駆け足週間などの取り組みを進めていけるようにする。』との改善点があげられている。次年度の取り組みに期待したい。また、睡眠にかかわる課題もあげられている。『学校だよりや保健だよりを通して睡眠の大切さを伝えているが、高学年を中心に就寝時間が遅い児童が多い。睡眠強調週間の期間は意識を高めることができる児童も、週間が終われば意識が低くなっている。家庭環境の影響も大きいように感じる。』との分析から、『継続的に声掛けや家庭への啓発をしていく。』との改善点があげられている。早くに寝る意識はついてきたものの起きることが遅くなってきており、そのことが遅刻数の多さにも繋がっていると考えられる。保護者啓発に力点を置いた取り組みを進める必要がある。

今年度は、運営に関する計画の中期目標を達成するための最終年度である。あらためて運営に関する計画を確認するとともに、昨年度取り組んできたことをさらに高めていき、今年度の成果にかえていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度、全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。（令和6年度 70.0%）
- ・令和7年度、全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を令和3年度より5ポイント増加させる。（令和3年度 70.9%、令和6年度 75.1%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
(令和6年度 44.5%)
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。
(令和6年度 現6年 国1.06、算1.15
現5年 国0.99、算0.96
現4年 国1.05、算1.06)
- ・規則正しい生活を身に付けている児童の割合(全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合を令和7年度調査において85%にする。
(令和6年度 「朝食を…」92.5%
「毎日、…寝ていますか」82.5%
「毎日、…起きていますか」93.8%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度、全国学力・学習状況調査の「5年生の時に受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について「ほぼ毎日」と答える児童の割合を30%以上にする。(令和6年度 23.8%)
- ・令和7年度には、ゆとりの日を週に1回設定・実施する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。
- ・令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、85%以上にする。
(令和6年度 79.4%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。（令和6年度 96.6%）
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
※不登校児童の在籍比率・・・不登校児童数が、全校児童のうちの何割を占めているかを表した数。（不登校児童数）÷（全校児童数）で算出。
（令和6年度 1.03%）
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
（令和6年度 40%）
※前年度不登校児童の改善の割合・・・前年度不登校児童をもとにして、何割が改善したかを表した数。
（（前年度不登校児童数）－（不登校児童数））÷（前年度不登校児童数）で算出。
Ex. 20人→6人 $(20-6) \div 20 = 0.7 \rightarrow 70\%$

↑改善した人数

学校独自の年度目標

- ・ 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を前年度より3ポイント増加させる。
（令和6年度 76.8%）
- ・ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を前年度より1ポイント増加させる。
（令和6年度 97.3%）（令和6年度新設）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。（令和6年度 44.5%）
- ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
（令和6年度 5年（現6年） 国 1.06、算 1.15
4年（現5年） 国 0.99、算 0.96
3年（現4年） 国 1.05、算 1.06）
- ・ 小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を68%以上にする。（令和6年度 67.2%）

学校独自の年度目標

- ・ 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、読書しますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に対して、「全くしない」と答える児童の割合を、前年度より7ポイント減少させる。（令和6年度 30.1%）
- ・ 校内調査において、11時以降に寝ている児童や8時以降に起床している児童の割合を前年度より減少させる。（令和6年度 11時以降就寝 25.5%、8時以降起床 7%）

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・ 授業日において児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数の年間授業日に対する割合を前年度以上にする。（令和6年度 83.6%）（令和6年度新設）
- ・ ゆとりの日を週に1回以上設定・実施する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては2日以上設定する。

学校独自の年度目標

- ・ 令和7年度末の学校保護者アンケート「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」に対して、肯定的に答える保護者の割合を85%以上にする。（令和6年度 79.4%）（令和6年度新設）
- ・ 令和7年度末の学校保護者アンケート「学校は教室や廊下など、子どもたちが学ぶ環境を整えている」に対して、肯定的に答える保護者の割合を80%以上にする。（令和7年度新設）

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立北中島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標(施策目標)を達成するための年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。(令和6年度 96.6%) ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ※不登校児童の在籍比率・・・不登校児童数が、全校児童のうちの何割を占めているかを表した数。(不登校児童数)÷(全校児童数)で算出。 (令和6年度 1.03%) ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 (令和6年度 40%) ※前年度不登校児童の改善の割合・・・前年度不登校児童をもとにして、何割が改善したかを表した数。 (前年度不登校児童数)－(不登校児童数)÷(前年度不登校児童数)で算出。 Ex. 20人→6人 (20－6)÷20＝0.7→70% <p>学校独自の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を前年度より3ポイント増加させる。 (令和6年度 76.8%) ・ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を前年度より1ポイント増加させる。 (令和6年度 97.3%) (令和6年度新設) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>「いのちについて考える日」の取組や「いじめについて考える日」、アンケート等の実態把握、自己有用感を高め自他の尊厳を認め合う学習活動を通して、いじめを許さない集団づくりに努める。(1-1)</p> <hr/> <p>指標 「いじめについて考える日」の取組を年1回、「いのちについて考える日」の取組を月1回、いじめアンケートを年3回実施する。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>道徳の時間をはじめとして、自他の尊厳を認め合う学習活動を通して、学校生活全体での指導により、児童の自己有用感を育てる。(2-1)</p>	

指標 校内調査で「人が困っているときは進んでたすけている」と答える児童の割合を 80%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 芸術鑑賞会・音楽鑑賞・民族芸能等の鑑賞及び音楽教育・体験活動の充実を通して情操教育を推進する。(2-1)	
指標 音楽科や図画工作科、学校生活等で、年 1 回芸術を鑑賞する機会を持ち、家庭内での情操教育のきっかけとする。体験的な活動を充実させるための支援を行う。	
取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 児童との対話、「心の天気」、スクリーニング会議、スクールカウンセラー等を活用し、子どもの実情に応じた丁寧な対応と情報共有を行い、不登校の早期対応・解消に努める。(1-2)	
指標 児童の状況に関する情報共有や不登校の未然防止や早期対応・解消に向けた教員間の情報交換を月 1 回実施する。	
取組内容⑤【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 特別支援学級担任を中心とする全教職員による共通理解、支援を実践する。(2-4)	
指標 特別支援研修会を前後期に 1 回ずつ実施する。また、学年打合せに参加し、さらに必要な時には随時情報交換し、連携を深める。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式2)

大阪市立北中島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。（令和6年度44.5%） ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 <p>（令和6年度 5年（現6年） 国1.06、算1.15 4年（現5年） 国0.99、算0.96 3年（現4年） 国1.05、算1.06）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を68%以上にする。 <p>（令和6年度67.2%）</p> <p>学校独自の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、読書しますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に対して、「全くしない」と答える児童の割合を、前年度より7ポイント減少させる。（令和6年度30.1%） ・ 校内調査において、11時以降に寝ている児童や8時以降に起床している児童の割合を前年度より減少させる。 <p>（令和6年度 11時以降就寝25.5%、8時以降起床7%）</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>読書に親しむための環境を整え、児童の読書に対する意識を高める。（4-1）</p> <p>指標 校内調査（児童）「読書が好きですか」に肯定的回答をする児童の割合を75%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>主体的・対話的で深い学びの授業を追求するため授業研究を実施し、自分の考えを表現できる子どもを育てる。（4-2）</p> <p>指標 全員授業（教員）とともに、研究授業を年間3回行う。学年ごとに指導主事や教育指導員から指導助言を受け、スキルアップを図る。</p>	

<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 読み・書き・計算などの基礎的・基本的な知識・技能を着実に身に付けさせるとともに、家庭学習も含めた学習習慣の定着を図り、習熟度レベルの向上を目指す。 (4-1)</p>	
<p>指標 月1回の教材研究日を設定し教材や指導法、学年間での系統性について研修を深める。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 体の使い方の工夫等、運動の楽しさを体感できる取り組みにより、進んで運動する姿勢を育て、体力・運動能力の向上に努める。 (5-1)</p>	
<p>指標 校内調査(児童)で、「運動や体を動かす遊びが好きですか」に、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 睡眠の強調週間を活用し、学級指導や、学校だより・保健だよりを通して睡眠の大切さを伝えるなどの啓発活動を行う。 (5-2)</p>	
<p>指標 睡眠強調週間を年に2回設定する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

(様式 2)

大阪市立北中島小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数の年間授業日に対する割合を前年度以上にする。（令和 6 年度 83.6%）（令和 6 年度新設） ゆとりの日を週に 1 回以上設定・実施する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 2 日以上設定する。 <p>学校独自の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 7 年度末の学校保護者アンケート「学校は家庭・地域との連携を密にとってている」に対して、肯定的に答える保護者の割合を 85%以上にする。 （令和 6 年度 79.4%）（令和 6 年度新設） 令和 7 年度末の学校保護者アンケート「学校は教室や廊下など、子どもたちが学ぶ環境を整えている」に対して、肯定的に答える保護者の割合を 80%以上にする。 （令和 7 年度新設） 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルフォर्मーション）の推進】</p> <p>学習者用端末を活用した朝学習・家庭学習・教科学習等において、個別最適な学びと協働的な学びの質の向上をめざす。（6－1）</p> <hr/> <p>指標 朝学習・家庭学習・教科学習等において、8 割以上の児童が ICT 機器を活用する日数を週 2～3 日以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>長時間勤務の解消を通じ、子どもたち一人一人に向き合う時間を確保する環境の実現をめざす。（7－1）</p> <hr/> <p>指標 ゆとりの日を週に 1 回設定・実施する。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>学力の状況などをはじめ、さまざまな学校情報を保護者や地域住民などに積極的に発信し、提供する。（9－1）</p> <hr/> <p>指標 学校だより、学年だより、ほけんだよりを月 1 回発行し、学校についての様々な情報を定期的に発信する。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>教職員で校内各所を点検し改善していくことにより、よりよい教育環境の実現をめざす。（9－1）</p> <hr/> <p>指標 安全点検を月 1 回実施し、校内の教育環境の整備・美化に努める。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点